

日刊
ア新東京

No.1316

2014年
3月3日(月)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

第4回宿泊分会代表者会議

「かんぽの宿大洗」

2月23日(日)～24日(月)「かんぽの宿大洗」にて、新東京支部で恒例になりつつある、第4回宿泊分会代表者会議を開催しました。男性48名・女性6名の計54名の参加でした。

一日目は13時より、冒頭支部長挨拶から会議がスタートし

ました。一日目のメインとして、共済関係と職場の課題という2本立てでした。まず共済関係ですが、「ポストライフ東京地方部」より村崎共済部長が来賓としてお越しいただいたことで、各共済商品の説明、特に交通災害・火災・自然災害・医療共済の3つについての大切さ

や、未加入者に加入してもらうには、まずは今回参加の執行部及び分会の役員の方が商品の内容を理解し加入していただければ、加入率は上がっていかないというお話をいただきました。



次に、吉井共済部長より「がんの現状」という事で、がん保険とは何か、がん保険と医療共済との違い等の説明があり、その後実際にがんにかかってしまった人のDVDを見ました。抗がん剤で生活が苦しくなっている中、がん保険に入っていればと思う内容であり、がん保険の加入の大切さや、安心さについて

て将来の事を考えさせられる時間となりました。

次に、職場の課題等についての議題となり、2月1日に開催された支部委員会で議論した事もあり、今回の会議では、各分会代表者の発言を聞き、発言した分会所属の執行委員が答弁といたしますか、自分の思っている事を言っていくという、今までと違った形で進めました。

そして、初日の最後は企画教育部より、J P s m i l e プロジェクトについて、今年度新東京支部が「チャレンジ支部」となり、今後の活動内容や、そもそも J P s m i l e プロジェクトってなに?等、説明がありました。

5時間近くにわたった会議も

いよいよ終了し、待ちに待った夕食の時間です。始めは分会でかたまつて座っていた席も、時間が経ちお酒の量も増えていくとバラバラとなり、分会の垣根を越えて、いたる所で乾杯やビールの注ぎ合い等が見られました。懇親会の途中、各分会ごとに前へ出て、一人ひとり挨拶をしていく自己紹介の時間を今年もしつかりと設けました。2時間30分の懇親会もあつという間におひらきとなりましたが、これからは本番という方が殆どでした。各部屋をお酒を持ってまわる人、同じ部屋でじっくり飲む人と、いろいろスタイルはありますが、普段違う職場で働いている人と話しをしても、やはり仕事の話で盛り上がり、お

互いの職場について分かり合ういい機会だと思えました。

2日目は、皆さん眠い目をこすりながら、石井組織部長より、後期組織拡大に向けた方針等の説明を受けた後、分会ごとにグループ討議の形式で、分会活動についても一度見直してみようという事で、チェックシートが配布され、その中の項目について執行部も各分会に混じり討議をし、最後に各分会から一人発表してもらい、2日間の日程は終了しました。

今回の宿泊分会代表者会議に向けて、分会会議を開催した分会・勤務指定のやりくり等、各分会役員の方及び、出席していただいた分会の代表者の方、お疲れさまでした。

～宿泊分会代表者会議にて～

分会機能強化と 組織拡大に向けて

2月23日(日)～24日(月)にかけて、大洗かんぽの宿にて新東京支部・宿泊分会代表者会議が開催されました。

当日は、深夜勤務明けの役員も多数参加し、総勢54名の次代を担う役員が集まりました。

新東京支部は執行委員及び分会役員に若い世代が徐々に増え

始め、これからの組合活動が楽しみになってきた反面、分会活動の濃淡が各々現れ始め、改めて自分の分会の強みや弱い部分を洗い出し発展させていく良い機会となりました。

最初に石井組織部長より今年度の組織拡大方針として、東京地本の早期3万2千人組織達成

に向けての方針が読まれました。続いて6月におこなわれる定期全国大会までの組織拡大大行動の日程が伝えられました。

新東京支部としての直近の行動として、60歳で定年退職し再任用をされる方へ組合再加入100%を目指すこと、4月1日付で採用される新一般職登用者のオルグも合わせて確認し各分会に協力を要請しました。

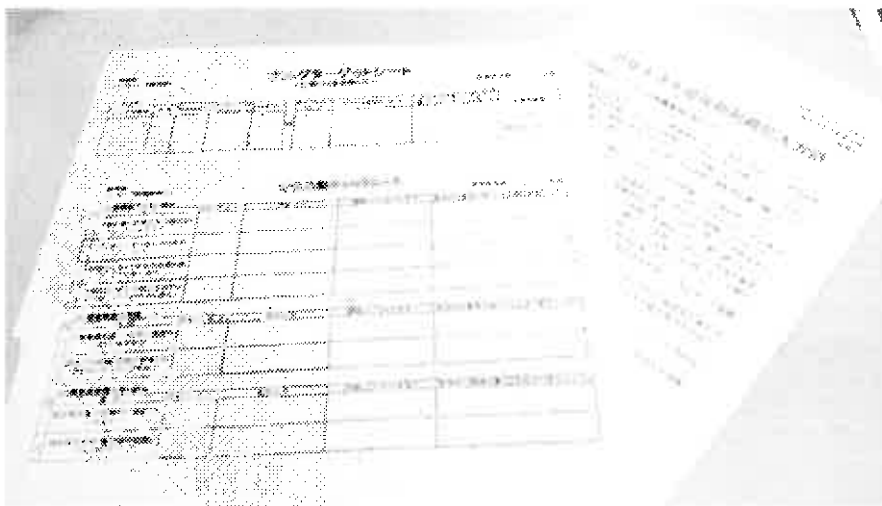
続いて高橋副組織部長より分会機能強化に向けての話がありました。「組合活動の基本は分会での活動です。お互いが隣の人を気にする・助ける思想が組合の大前提であり仲間作りが原点。人間らしい活動をするにはどうすればいいか。人と人との繋がりを大切にすると活動をして

いくには何をしていけばいいのか。」について提案がありました。そのことを再認識するため、組織部では「分会機能チェックシート」を作成し、執行委員も自分の分会に混じり話し合う場をもちました。改めて自分の分会の現状を見つめ直すいい機会となったのか、活発な話し合いがおこなわれ、当初予定していた時間をオーバーしても熱い議論が終わらず、自分の分会をより良くしようという強い思いが伝わってくる場となりました。

最後に組織拡大行動について話がありました。各分会会議において組織拡大についての話題が出るのが少ない現状を踏まえ、組織部独自で「オルグターゲットシート」を作成しました。まずは各分会会議で組織拡大について話し合う素材が必要と考え、記入したシートを元に話し合いの機会をもつ習慣を定着させていくのが目的でした。

結果として、全分会が真剣に話し合っている姿をみて、これからの組織拡大行動が楽しみになる一時となりました。

この日の組織部の分会機能強化・組織拡大行動の記入シートを元に、分会役員一同、益々の成長と発展を成し得ていくこと



と思えますので、温かい支援とご協力よろしくお願いします。

日
刊

JP新東京

No.1318

2014年3月5日(水)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

2014春季生活闘争交渉に対する 署名行動集約結果

頑張るぞー!

2月20日現在組合員 1098名

署名枚数 804枚

署名数 1377名分

懸命に努力している組合員の頑張りに報いるため、2月28日(金)中央団体交渉が開始された。2月1日に開催された支部委員会以降、各分会で取り組んでいただいた署名行動は、組合員やそのご家族の切実な思いとしてたくさんの用紙を回収することができました。

今後は3月13日(木)を回答指定日に申し入れ、交渉・妥結を目指し、強い決意を持って交渉展開中です。

【要求書提出にあたり小俣委員長申し入れ内容(一部抜粋)】

会社は中期経営計画を公表した、JP労組も、会社の成長・発展を成し遂げていくため、中計を最重要課題と位置づけ、「人への投資」を最優先課題として強く求めてきた。しかし、残念ながら「人への投資」に対する会社との見解に大きな隔たりがあると言わざるを得ない。この三年間、組合員は懸命に事業の再生に協力してきた、これまでの組合員の痛みにしっかりと報いるとの決断からスタートするべきだ。また、日本郵便の労働力不足は、一部の地域・職場において異常な時間外労働を招いている事態となっている。中計の推進に積極的に協力できる環境整備をはかるため、会社の決意を具体的な数字として組合員に示すことが経営陣の責任であり、私たちが求める「人への投資」は、一時金の回復を中心とした労働条件の改善である、経営陣の真摯な経営判断と誠意ある回答を、3月13日にグループ一体で示すことを強く要請する。

2014春闘速報

すべての働く仲間の処遇改善を！！

要求交渉態勢確立し実務レベル交渉へ ＝ 3月5日より本格展開開始＝

2014春闘は、2月28日に要求書を提出し交渉がスタートしました。

中央本部は要求交渉を展開するにあたり、実務レベルでの交渉に向け以下の通り態勢確立と要求の考え方を「中央闘争本部」で確認しました。

(1) 一時金・月例賃金の引上げなど、賃金水準の改善

- ① 窪田書記長をトップとし、一時金の早期回復に向けて「4.3月」の回答を強く求めていく。
- ② 定期昇給は早期に完全実施を示すことを求める。
- ③ 正社員基準内賃金の引上げは、新一般職も含めた要求であることを確認し、「短時間社員」についても引上げを求める。

(2) 期間雇用社員の処遇改善や要員課題、ワークルールの確立など

- ① 石川労働政策局長をトップとし、(1)以外の課題の改善を求める。
- ② 時給制から月給制への登用時における逆転現象の早期解消、正社員との均衡に向け引上げを求める。
- ③ 時給制契約社員の処遇改善として郵政最賃の底上げ、資格給の改善を求める。
- ④ 長期安定的な労働力確保として正社員比率の改善を強く求める。
- ⑤ 時間外労働の縮減にむけ、これまでの会社の認識や見通しの甘さを強く追及する。

中央本部は「中央闘争本部」で確認した内容に基づき、3月5日(水)からの両実務レベルでの交渉は連携を密にはかり、最大限の回答引き出しに向け交渉を展開することとします。引き続き決起集会の開催及び職場集会決議の会社への送付を要請します。

物流ソリューション営業の本格実施への対応

3月を迎え、2014春闘交渉も5日から実務レベルでの交渉が始まり、その動向についてもより一層注目する時期となりました。

さらに、日本郵政株式会社からは日本郵政グループ中期経営計画も発表され、これに応えるべく、我々組合員一人ひとりが収益を意識し業務にあたっていくことが必要と考えます。

そういったことを踏まえ、今後の収益拡大へ向けた施策として、これまで試行としてきた「物流ソリューション営業」について、会社側から本格実施していくとの説明がありました。

1. 施策概要

(1) 目的

従来行っている郵便物・荷物の配送のみを請け負う営業に加え、顧客の商品に係る在庫保管・管理から配送に必要な梱包等の流通加工作業及び物流関連システムの提供等にも事業領域を拡大することで、顧客のニーズに最大限応えることにより、増収増益を目指す物流ソリューション営業を構築したい。

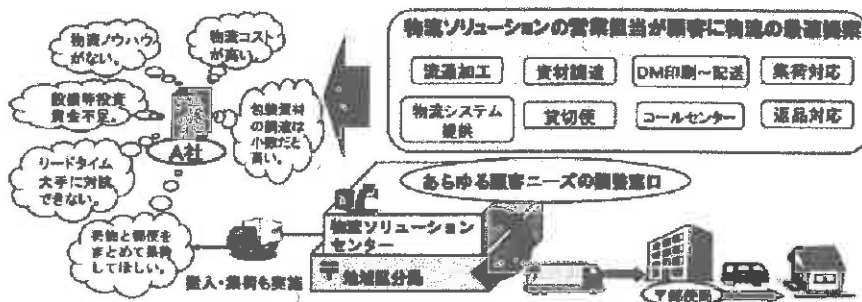
(2) 実施方法

ア 流通加工作業から差立に至るまでの業務を管理・運営する物流ソリューションセンター(以下「センター」という。)を設置し、幅広い顧客ニーズに一元的に即応できる体制を構築なお、物流ソリューション営業担当者は、ノウハウを有する者によるOJT によって、人材育成を実施する。

イ 流通加工作業等については、当初は部外委託をすることを主として確実に利益を獲得

ウ 流通加工作業等の実施場所については、受託状況に応じ、部外倉庫の借入も含めて柔軟に対応

【センターのイメージ】



2. これまでの経緯

- ◆ 2013年8月から、新越谷郵便局及び川崎港郵便局内に、本社組織としてセンターを設置し、物流ソリューション営業を試行
- ◆ センター配属者はセンター設置局を拠点として営業活動を展開
センター長1名及び営業、オペレーションに精通した人材を2名配置し、物流ソリューション営業の推進を担う人材を育成しながら営業推進

3. 試行結果

- ◆ 人材育成については、半年程度で育成できる見込みが立った。顧客ニーズを確認すると共に、流通加工作業等も含め一定の利益を確保しての案件獲得目処が立った

4. 本格実施内容

- ◆ 2014年4月からは、試行結果を踏まえ、問題点を解決し、物流ソリューション営業を本格実施することとし、全国展開する。
 - (1) 2014年度の実施概要
8支社の営業部にセンターを設置（センターは原則として地域区分局に設置）
センター社員の人材育成、スキル向上を図りながら営業推進
 - (2) 2015年度以降の取組
2018年度までの5年間で全国の地域区分局にセンターを設置し営業展開

5. 本部の判断と今後の対応

- (1) 本部は、これまでの郵便局ロジや物流ソリューションの試行は、空いたスペース等を活用し、付帯作業を受注することにより郵便商品等の差し出しにつなげていくことが主目的となっていたが、今後は、付帯作業でも収益を確保していく方向性にあり、多くのコストを要するものではないことから、一定有効であると判断したところだ。
また、センター体制の確立に向けた要員配置にあたっては、希望等に基づいた丁寧な対応がはかられることとなり、人事評価および手当等の処遇面においても著しい不利益が生じることは想定されるものではないと、ひとまず判断することができたことから、本件について了としたところだ。
- (2) 一方、物流ソリューション営業に関する専門的な知識や経験が乏しい営業専門要員等が従事していくなかで、営業ノウハウを身につけていくためのOJTの状況等については、十分注視していく必要があると考えます。そして、センターの具体的な設置場所を明らかにするよう求めていく必要があります。
- (3) したがって、今後は、物流ソリューションセンターの設置に向けた準備状況、要員確保に向けた取組状況、および設置後のOJTの状況と営業推進の状況等を注視しつつ、必要な対応をはかっていくこととします。加えて、物流ソリューションセンター社員に適用する調整額等に関して、社員の給与等に関する協約等の見直し手続きへの対応を進めていくこととします。

日

刊

ア新東京

No.1320

2014年 3月 7日(金)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

2014春闘速報

**定期昇給「完全実施」を示すにとどまる
一時金など主要な項目は引き続き慎重に検討**

2014年3月6日(木)、会社から「定期昇給を完全実施する」との考え方が示されたものの、一時金、月例賃金の引き上げ及び期間雇用社員の処遇改善等の中心的な項目については、「引き続き慎重に検討している等」との考え方に留まりました。

本部は、「一時金、月例賃金の引き上げ及び期間雇用社員の処遇改善等など、経済要求項目が本日段階においても『引き続き慎重に検討している等』の考え方で到底納得できない。

今春闘は、物価が上昇に転じている中、消費増税を控え、これまでにない賃上げの必要性が強調されている。日本経済の好循環を作り出すため、すべての働く者の賃金の『底上げ・底支え』に経営陣が応えることが求められている。

郵政グループもマクロの視点に立ち、企業内の論理に固執するのではなく、社員の労働条件をどれだけ改善するのかを真剣に検討することが強く求められている。

郵政グループを見る社会の目は、第3四半期決算や1兆3千億円の投資計画を含む中計発表の状況に注目している。会社として社会的責任をどう考えているのか。仮に前年実績3.3月をもとにした検討では、今年度の実績額3.8月から大幅に後退する。

従来水準での回答は、郵政グループへの社会の目線、組合員・社員の目線からも、非常に大きな批判・反発を受けることは免れず、J P 労組としては、到底受け入れられない。

組合員の厳しい生活実態を受け止め、真剣に報いる回答を示すべきだ。組合員は、この3年間一時金の低額水準に耐え、懸命な努力を積み重ね、上場を展望できる経営基盤の確立に協力してきた。

中計が策定できるのは、その努力のうえであることを忘れてはいけない。組合員一人ひとりが、上場準備作業に前向きに取り組むため、真剣な経営判断を強く要請する」ことを申し入れ、3月7日(金)の再回答を求めて、3月6日(木)の交渉を打ち切ったところだ。

本部は、最大限の回答引き出しに向け、公式・非公式交渉を全力で積み上げていくこととします。

以 上

日 刊 JP 新東京	No.1321	2014年3月10日(月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

東日本大震災から3年 「わたしたちは忘れない」心ひとつに… 3・11「震災復興カンパ」のおしらせ

東日本大震災から明日で3年経ちます。東北の被災地では、復興しているところ、いまだに町の再建のめどが立っていないところがあり復興のスピードに違いが見えてきています。陸前高田の広大なかさ上げ計画はなかなか進んでいないのが現状です。釜石市では町の中心に大型スーパーを誘致し人の流れを取り戻そうとしています。しかし、古くからある地元の商店では今後に不安を持っているそうです。現在でも東北だけで22万3千人が避難しています。福島県では福島第1原発事故の影響で13万人が避難し、そのうち4万8千人が福島県から県外へ避難しています。

郵政で働く62名の仲間が震災の犠牲になりました。避難方法や緊急時の対応、一時避難所としての郵便局のあり方など点検していかなければならないと思います。

JP労組新東京支部は「私たちは忘れない…」心ひとつに東日本大震災義援金カンパとして東日本大震災を教訓としつつ東北復興のためにカンパ活動を取り組みます。

カンパ期間:2014年3月10日～3月29日
最終集約は3月31日(月)18時とします

東京大空襲から69年…

1945(昭和20)年3月9日深夜から10日未明にかけて東京の下町を襲った米軍の焼夷弾爆撃により火の海となり一瞬のうちに10万人以上の命が奪われました。100万戸の家屋が焼失し、多数の負傷者、親を亡くした孤児が東京にいました。

あれから69年…今日3月10日は69回目の東京大空襲の日を迎えることとなります。現代の治安維持法といわれている「特定秘密保護法」を与党が強行的に採決し、民主主義の暴挙、戦争政策推進への道へきな臭さがただよってきています。

祝正社員登用試験に合格したみなさんおめでとう

2014春レク「牛久シャトーカミヤ」 支部バーベキューレクのお知らせ

待ちに待った新東京支部春レクが開催されます。桜の花がとてもきれいだっただと好評をいただいていた茨城県・牛久シャトーで組合員や組合員の家族との交流の場としてバーベキューレクを開催します。

今回も大型バスを借り切り現地まで送迎いたします。バスの乗車希望を集約しますので出欠の確認は早めに近くの組合役員へお申し出ください。お子さんやご友人など一緒に連れていきたい人であれば、参加可能です。ぜひ、お声かけください。

また、4月1日付けで正社員登用試験に合格したみなさんおめでとうございます。この春レクは正社員登用合格記念レクとしての意味もありますので今回にかぎり参加費無料といたします。桜咲く牛久シャトーに参加して、組合員の絆を深めていきましょう。

日時:2014年4月6日(日)

場所:茨城県牛久市・牛久シャトーカミヤ

集合:新東京郵便局前9時00分 9時30分出発

移動:大型バスを手配します 現地着11時00分予定

会費:組合員本人(大人) 2000円

家族・友人・OB(大人) 1000円

子供はすべて……………無料!

正社員登用試験に合格したみなさんも…無料!

**バスに乗る人数を集約しますので、申し込みの
第一次集約は3月29日(土)**

最終締め切りは4月4日(金)18時までとします。

二普分会

No.1323

2014年
3月12日(水)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

月間二普分会 創刊号 第一回分会会議開催!

第二普通郵便分会の活動報告を定期的に日刊紙に掲載していきま
す。記念すべき創刊号は去る二月
二十一日(金)組合事務室にて開
催された今年最初の分会会議につ
いて報告します。分会会議には分
会役員の他菅家、高橋(卓)両執
行委員も参加し、活発な議論が交
わされました。

のあり方、三月二日に行われた退
職者送別会の声かけを中心に会議
が進んでいきました。
職場の問題では追跡ゆうメール
の到着増加に伴い区分担当者の負
担が以前より増えているが、今後
どのくらい追跡ゆうメールが増え
ていくのか情報が欲しいという意
見が出され、二月二十三日に行わ
れた大洗での宿泊会議で分会の問
題点として発言することとなりました。

新たな人事給与制度の問題で
は、どのくらいの金額が支払われ
るか見えてこないのが具体的な金
額を示してほしいという意見があ
り、なかなか見えてこない今回の
制度に対し不安に感じている組合
員が多いという現状が改めて浮き
彫りとなりました。

組織拡大に関して、高橋組織部
副部長から今月の組織拡大強化月
間に向けて、二普分会で新しい仲
間を一人でも多く増やすために協
力をお願いしますとの力強い呼び
かけがありました。

最後に三月二日(日)に開催さ
れた退職者送別会開催に向けて組
合員への周知をお願いし、一時間
半にわたる分会会議は終了となり
ました。(H・H)

中島書記長の進行により会議は
スタートし、職場での問題、新た
な人事給与制度の問題、組織拡大

二普分会退職者送別会を開催

2014年3月2日（日）、18：30より千年の宴東陽町駅前店にて今月で定年退職となる塚田さん、山崎さん、先月退職した再雇用社員の足達さん、そして65歳契約満了により退職となる時給制契約社員金子さんの送別会を開催し、総勢40名を超える組合員が参加して盛大に行われました。



退職者の皆様からそれぞれあいさつをいただき、これまでの郵便人生での苦労話や共に働いた多くの仲間が今回の送別会へ駆けつけてくれたことへの感謝の気持ちを述べられました。また今後を担うべき現役組合員へのメッセージもいただき、組合員一同身の引き締まる思いとなりました。

長きにわたって郵便のためにご尽力された退職者の皆様、長い間本当にお疲れさまでした。また、勤務の都合により参加できなかった組合員の皆様から多くのカンパをいただき、この場を借りて感謝申し上げます。



日刊

新東京

No.1324

2014年
3月13日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

第2回

共済サポーター養成講座に 新東京支部より3名参加

3月8日(土)、JP労組東京主催の「第2回共済サポーター養成講座」が、TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにおいて開催された。東京にある各支部から60名以上が出席、新東京支部からは3名が参加した。

各支部・分会における、共済推

進体制の強化と、共済活動の裾野を拡げるための人材を育成しようというのが講座の目的だ。

「第2回」と銘打っているように、11月に1回目の講座があり、そこでは各共済商品の特色について学んだ。今回は、実際に加入や申請をするときに、どんなことに

気をつければよいのか、どのような書類が必要なのかといった、より実務に即した内容であった。

各共済商品は「相互扶助」を目的とした、営利を目的としない保険であるため、民間保険会社の商品に比べ格段に保障は厚く、掛け金などの負担は少ないという。

ご存知の方もいるかもしれないが、共済には生協としての側面がある。そのため敷居が高いと感じる人もいるだろう。

しかし働いている職場で、または通勤中や在宅中など、いつ何時にどんなケガや病気に見舞われるかわからない。そのようなときに共済について一考するのも良いかもしれない。

「明日はわが身」という言葉もあるのだから。

東日本大震災から3年…

いまだ見えぬ復興

一昨日の3月11日に、あの未曾有の大災害から3年が経った。

この3年を「もう…」という人もいれば、「まだ…」という人もいる。これを読んでいる皆さんにとってはどうだろうか。震災によって多くの尊い命が亡くなり、生き残った人も故郷を追われ、いまだ戻ることを許されない状況がある。震災は、まだ続いているといえる。

たしかに道路や鉄道といったインフラについては復旧が進んでいる。先日、安倍首相が一部不通となっている常磐道につい

て、来年GWまでに全線開通させる意向を述べた。復興を阻むガレキについても岩手・宮城ではメドがつきそうとのこと。

しかし、そこに住まうべき人びとに対しての支援はまだまだといえる。現在、仮設住宅で暮らしている人たちが移り住む予定の「災害公営住宅」は、計画の1割も完成しておらず、入居にいたっては3%程度という。

また、3年経つたいまでも震災へのショックや、長引く避難生活などによるストレスや過労を原因とした、いわゆる「震災

関連死」も増え続けている。原発事故の影響で避難者の多い福島県では今年、震災関連死者数が地震・津波などの直接要因の死者数を上回った。

仕事が見つからない、故郷に帰れない、家族や友人とも離ればなれと、多くの人が将来への展望を描けずにいる。あまりにも過酷というほかない。

3年が経過したいま、震災に対する関心の風化が懸念される。関心の風化は復興をさらに遅らせる。それらを防ぐためには「伝える」ことが大切だ。

今後折をみて、震災について取り上げたいと思う。それが少しでも復興につながると信じて。

年末年始業務運行および 年始営業の振り返り

1. 本部は、年末年始業務運行および年賀営業に係わる会社の評価・反省を示すよう求め、現場の実態を踏まえた振り返り交渉を行ってきました。

なお、会社から示させた評価反省の内容は別添1「2013年度年賀業務・ゆうパック業務運行状況総括」および「2014年用年賀葉書販売状況等」のとおりです。

2. 主な交渉の内容等は次のとおりです。

年末年始業務運行に関して

ア 本部は、日常的な要員不足の解消に向けた取り組み、夕方・夜間帯に集中する集荷・再配への対応のあり方、拠点局におけるオーバーフロー対策、ゆうパックの取扱いがピークを迎える際の運送ダイヤの設定のあり方およびパレット等備品の取り回し、過積載防止に向けた具体策、短期期間雇用社員・受託者確保のあり方 ― 等への問題意識をもって、振り返り交渉を重ねてきました。なお、要員不足の解消に向けては、先般整理をはかった「業務運行の安定化と郵便再生の実現に向けた要求交渉」により集中的に対応をはかってきたところですが、現在は、春闘交渉のなかでも議論を積み重ねているところでもあり、強い問題意識をもって継続的な対応が必要と判断をしているところです。

イ そうしたなかで会社から、特に輸送に関する部分については、「あて地別パレット内充填調査」および「保冷容器総数調査」を実施するとの説明を受け、すでに周知している経過にあります。また、過積載防止に向けた取り組みについては、現在トラックスケールを配備している8局（新越谷、新東京、綾瀬、長野東、名古屋神宮、新大阪、岡山中央（長船分室）、新福岡）に加え、2014年度については、荷物の取扱量等を勘案し緊急および重要な局に配備していく予定であるとの回答を示させました。

ウ 本部は、ひとまずそうした会社の考え方等を受け止め、その他の課題への具体的な対応を含め、中元期オペレーションを逆算しつつ、継続的に交渉展開をはかっていくこととします。なお、輸送関連の課題に関しては、地本輸送担当者会議での議論も踏まえつつ、輸送担当との連携のもと対応をはかっていくこととします。

年賀営業に関して

- ア 本部は、不適正営業の根絶に向けた取り組みについて、①実質的に販売準備が進んでいるなかで考え方が示されたこと、②社員周知の期間が不足したこと、③立替払いの禁止についての管理者の認識不足、④Web受注システムの運用に向けた環境整備等が不十分だったこと——等から、その実効性は高まらなかったとの判断に立って、会社の認識を質しました。
- イ 会社は、販売目標の透明化、立替払いの禁止、および金券シヨップ対策等の取り組みにより、一定の成果があったとの認識を示す一方、特に、Web受注については改善を講じる必要があるとの考え方を示しました。
- ウ 本部は、「立替払いの禁止」を前面に打ち出したこと等、昨年度までとは異なる取り組みを進めたことを一定評価しつつも、依然として高い個人目標が設定されていることや、業務の最繁忙期と販売ガイドラインのピーク期が重なること等が、「実需のない買取営業」や「時間外営業」等の不適正営業を招いているものとの認識に立って、振り返り交渉を重ねたところであります。そうしたなかで、会社から、評価反省の結果として、「販売目標の透明化」と「販売ガイドラインの適正化」が必要との認識が示されたことから、今後の営業推進のあり方について議論を行っていくための、あらためてのスタートラインに立つことはできたものと判断しています。
3. 今後は、今回の振り返り交渉の内容を踏まえながら、次年度の取り組みにつなげていくために、あらゆる機会を捉えながら、交渉を展開していくこととします。
- また、特に6月末～7月および10月末～12月に業務・営業がともにピークを迎えることをあらためて認識し、そうした時期を逆算して経営推進をはかるよう、会社に対し強く求めていくこととします。

以上

日時:2014年4月6日(日)

場所:茨城県牛久市・牛久シャトーカミヤ

集合:新東京郵便局前9時00分 9時30分出発

移動:大型バスを手配します 現地着11時00分予定

会費:組合員本人(大人) 2000円

家族・友人・OB(大人) 1000円

子供はすべて……………無料!

日 刊 新東京	号外	2014年3月14日(金)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

2014春闘交渉妥結

「年間一時金3・5月」「正社員ベア1000円」
「月給制ベア1000円」「時給制一部の10円
引き上げA・習熟度なしのみ」
＝年度末に「特別手当」を検討＝

1. 賃金水準の改善

◆年間一時金3・5月（夏期1・65月、年末1・85月）

※ 年度末に営業利益やその他の業績が計画を大幅に上回ると見込めるようになった場合には、

各社において、「特別手当」を支給することを検討

◆正社員の基準内賃金「一人当たり平均1,000円」引き上げ

◆定期昇給：完全実施

2. 期間雇用社員の処遇改善

◆月給制契約社員の基本月額「1,000円」の引き上げ

◆時給制契約社員の資格給の一部の10円引き上げ

※2013年度に引き上げた支給区分のうち、「A・習熟度なし」の資格給を10円引き上げ

3. 要員課題

◆2015年度新卒採用予定数をグループ7,235人

○日本郵便6,460人

(地域基幹職3,800人、(新)一般職2,600人、総合職60人) (ゆうちょ銀行420人、かんぽ生命325人、日本郵政30人)

◆2015年度正社員【(新)一般職】登用予定数 約2,700人

○日本郵便2,600人(郵便コース2,000人、窓口コース600人)

(ゆうちょ銀行50人程度、かんぽ生命40人程度、日本郵政15人程度)

◆2014年度 郵便事業については、追加採用を決断させる

4. ワーク・ライフ・バランスの実現、総実労働時間の縮減

◆持家に係る住居手当「1,000円」引き上げ

※現行手当：5,200円⇒6,200円、6,200円⇒7,200円

◆時間外労働割増率2か月81時間超及び年間360時間超「30/100→35/100」に引き上げ

5. ワークルールの確立

◆65歳定年制と有期雇用契約労働者の無期労働契約への転換は、継続協議

回答指定日に向け、連日、準トップ交渉を断続的に積み上げてきましたが、昨日深夜の段階においても、両者の主張の乖離は大きく膠着状態が続いていました。

3月13日の回答指定日を迎え、この局面の打開を図るべく、公式・非公式交渉を並行して行うなど、あらゆる手段を講じてきました。

その結果、会社は、①正社員一時金「3. 3月」から「3. 5月」（いずれも+特別手当）、②困難としていた基準内賃金引き上げを「1, 000円実施」、③明確にしていなかった期間雇用社員の処遇改善は「月給制契約社員基本月額1, 000円引き上げ」「時給制契約社員の資格給の一部（A・習熟度なし）10円引き上げ、等の回答を示してきたものです。

中央闘争本部においては、組合員の強い思いを受け、一時金水準回復に向けた交渉を全力で取り組みましたが、「3. 5月+特別手当」の回答は、要求額4. 3月と乖離のある回答であり、期待に応えたものとは言えない内容であるものの、

(1) 会社が示した回答の所要額の総額は、会社が固執する日本郵便全体の営業損益水準を超えたものであること。

本春闘交渉の積み上げによって、①今年度の特別手当交渉で求めた郵便事業セグメント単体の営業損益水準支払能力論を超える考えを示させたもの、②その上で、日本郵便全体の営業損益水準を超える判断を引き出した、として一定の意味があるものです。

(2) 特別手当については、水準回復と合わせた年間一括妥結を強く求めたものですが、結果として要求額との乖離があることから、経営計画との上ブレが生じた際の組合員への還元策として選択せざるを得ないこと。

(3) 連合方針を踏まえ賃金の「底上げ・底支え」に向けて求めた、正社員基準内賃金の引き上げ「1, 000円」を実現したこと。このことは、生涯賃金に大きな影響を及ぼし、安定的な処遇改善に効果が大きいこと。（大卒22歳入社勤続38年モデル：退職手当を含めた生涯賃金約100万円の増加）

(4) 期間雇用社員の処遇改善については、月給制契約社員基本月額「1, 000円」引き上げとともに時給単価の一部引き上げによりを昨年度と同程度のグループ平均37円の引き上げ効果が見込めること。加えて正社員登用数を従来より大幅に拡充させたこと。

(5) フロントラインの厳しい要員課題の改善に向け、2015年度新規採用において従来の規模を大きく超える採用者数を示させるとともに、特に要員確保が困難と思われる地域について、2014年度中の正社員追加採用を実施させる決断をさせたこと。

等を総合的に勘案し、会社としてもギリギリの回答であると受け止め、13日、22時30分から最終の団体交渉に臨み交渉妥結をはかりました。

日 刊
ア新東京

No. 1 3 2 7

2014年
3月18日(火)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

連合東京の行動へ参加しよう JP労組東京の呼びかけ

労働の規制緩和反対

今、政府は「アベノミクス第三の矢」でもある「成長戦略」の名の下に、働く私たちの雇用を脅かすような解雇や労働時間のルールを緩和しようとしています。

このような労働者保護ルールの改悪は、九割が雇用労働者である「雇用社会日本」において、

働く者の犠牲の上に成長戦略を描くものであり、決して許されるものではありません。

連合東京では、「連合東京ホームページ」内に「参加型サイトバトルリング」を立ち上げて労働者保護ルール改悪反対の署名を募ることとなりました。

働く人間を
使い捨てる
ような
社会にしちゃ
いけないわ。



これは、従来の署名活動を連合東京ホームページ内のサイトを使っておこなうもので、反対の数や意見をもとに連合から政府・国会などへ強く働きかけていくものです。

具体的には、携帯電話(スマートフォン)やパソコンから「連合東京」を検索し、

「連合東京ホームページ」を

選択、

画面上部の「労働規制緩和反対バトルリング」を選択して、右下部に「名前、メールアドレス、所属(連合組合員を選択)、所属組織名(JP労組を選択)、性別、一言あれば記入」を入力するだけです。

多くの働く人に参加をしてもらうための取り組み施策であり、JP労組東京としても積極的に取り組むこととします。で、多くの組合員みなさんの呼びかけ、協力をお願いします。

なお、呼びかけのパンフレットは、支部にあります。参照してください。

ベースアップと私たちの暮らし??

今年の春闘は大企業の一部が「ベースアップ」(賃金の底上げ)を安倍首相の要請に応えるという形でわずかばかり実施した。いままで死語化していたベースアップで世の中は景気良くなるような雰囲気がつくられている。しかし、そんな景気のいい話はどここの事なのか実感しない。

4月から消費税率が5%から8%に上がる。

すでにこの数年で実質賃金は2%以上低下していると政府発表ですらいわれている。

さらに医療・介護の保険料は値上がり。国民健康保険は保険料の上限が年間4万円、75歳以上が加入する後期高齢者医療制度は2万円引き上げられる。

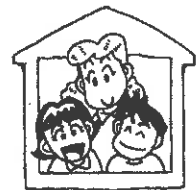
また、70~74歳は医療費の窓口負担が4月以降に70歳になる人は2割に上がる。年金支給額も、物価水準に比べて高いとして1%減になる。

さらに消費者物価が2%以上上がっている。

これだけでも私たちの負担は5%以上になっている。

日本の非正規労働者はすでに2040万人(全労働者の38%)になる。また生活保護世帯は150万世帯に200万人の生活保護者がいる。この人たちはベースアップは無縁なのだ。

春闘の只中でこのような事を考えていきたい。



日 JP新東京 刊	No. 1328	2014年3月19日(水)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

第7期アドバンス セミナー参加報告

郵企分会 武井・羽田分会 小林 参加

3月1日・2日の2日間にわたって逗子にある IPC 生産性国際交流センターにて、東京地本主催による、新任執行委員を対象としたアドバンスセミナーに参加してきました。

初日、13時30分から始まったセミナーは、冒頭、東京地本の山内委員長から、参加した新任執行委員に対して、労働組合の在り方や執行委員として果たすべき役割など、優しくも熱い激励の言葉がありました。

セミナーは、大きく分けて3つの議題について、講話があったりグループディスカッションをしたり、という内容でした。

1点目は民主的労働運動の理念と JP 労組の基本的な考え方について、2点目は組織拡大と組織強化について、3点目には政治活動の必要性についてです。

特に組織拡大と組織強化については一番時間を割いておこなわれ5名ずつのグループに分かれ、グループ討議・発表がありました。各支部、それぞれに様々な問題を抱えていたり、様々な活動をしていたり、新東京内だけでは得られない刺激を受けました。

また、組織拡大と組織強化活動は両輪であり、組織拡大を怠れば組合の成長・発展は望めず、組織強化を怠れば組合の求心力の低下に繋がり、これもまた組合の成長・発展に支障をきたす、という言葉聞き、求心力の低下が言われている今、改めて重要なことであると認識させられました。

政治活動の必要性については、私たち郵便局で働く者の意見・要望を国会で代弁してくれる、JP 労組の組織内議員を擁立することがいかに重要であるか、再認識しました。

このような充実したセミナー内容と、1日目の夕食時におこなわれた懇親会では他支部の方々や東京地本の方々と意見交換等も、お酒が入った席とはいえ、貴重な話や勉強になる話を聞くことができて、とても有意義な2日間となりました。

まだ参加したことがない支部執行委員や分会役員には是非とも参加していただきたいと思います。

最後に、このセミナーで印象に残った、労働運動家のサミュエル・ゴンパースという方の言葉を紹介します。

【モア&モア】

「もっと学校を多く、もっと牢屋を少なく、もっと本を多く、もっと兵器を少なく、もっと知識を多く、もっと悪徳を少なく、もっと安定した雇用を多く、もっと犯罪を少なく、もっと余暇を多く、もっと強欲を少なく、もっと正義を多く、もっと復讐を少なく

労働組合が本当にほしいものは、我々の善性を磨くための、もっと男性の品性、女性の美しさ、子どもの幸福と明るさをつくるためのより多くの機会を持つことである。これが労働組合の所期の目的であり、新たな社会との関わりの中で果たすべきことである。」

皆さんはどうお考えでしょうか・・・

牛久バーベキューレク開催

日時:4月6日(日)

集合:新東京局前 9時00分

会費:組合員本人 2,000円

家族・友人・OB 1,000円

子供はすべて・・・無料です

大勢の参加をお待ちしております!!

詳細は支部執行委員まで

日 刊	JP新東京	No.1329	2014年3月20日(木)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

第6回支部執行委員会

東日本大震災から三年、14時46分に一日遅れですが、東北の方に向かい執行部一同黙禱を捧ぐ

3月12日、東京地本から、小林厚志執行委員、中田執行委員を招き、第6回執行委員会が開催されました。

まず、支部長から、「先日の宿泊会議おつかれさま、春闘署名ご協力ありがとうございました。みんなの努力で1000枚もの枚数が集まりました。」とあいさつがありました。つづいて、小林執行委員が「春闘も厳しい情勢。抗議行動などやっている。本部も情報流しているのので伝えてほしい。」と述べ、中田執行委員からは「日本一の規模の新東京支部と東京郵便輸送支部一体となって業務に対応してほしい。期間雇用社員は未加入者が多いので声をかけよう。」と話がありました。

支部長書記長会議からの報告では、「心ひとつに」作業ボランティアを3月から6月に全4回派遣すること、東京地本は現在3万0092人、全国大会までに24万1000名、東京地本で31000人組織目指してがんばろう。春闘交渉では住宅手当はとっているが、あとは目に見える数字がほしい、中期経営計画では年間4300億円で3年間で1兆3000億円にのぼる設備投資をする事になっているが、人への投資もしてほしいこと、書損はがきの回収運動の報告などがありました。

つづいて、4月6日に迫った支部レク、牛久のシャトーカミヤでのバーベキュー大会の準備の報告があり、この四月に社員となる仲間との絆を深めるために、ひとりでも多く連れて行きたいこと、執行委員の任務分担を確認しました。

さらに大洗で出た、職場の問題点の総括では、X線問題など、職場で対応すべきものは職場で、運送便の問題などは地本に持ち帰り検討する、各部の理屈、各局の理屈ではなく、大きな視点で捉えて対処しようと小林執行委員から話がありました。

また、3月10日から震災カンパの取り組みが行われていることが報告されました。

新人事給与制度の業務研修について、DVD40分鑑賞と20分しか説明が無いこと、本来は質問に対しその場で管理者が答えることとなっているが、実際はその場で答えず後日回答となっていること、そもそも研修のための超勤も認められているのに、超勤にせず、研修時間がスピードアップの忙しい時間に設定されていることなど、各執行委員から問題が報告されました。新人事給与制度の業務研修は我々の働き方を決める重要な説明です。管理者の皆さんには、あいまいさの無い様説明など取り組んでほしいと思います。

牛久バーベキューレク開催(シャトーカミヤ)

日時:4月6日(日)

集合:新東京局前 9時00分

会費:組合員本人 2,000円

家族・友人・OB 1,000円

正社員登用者 無料です!

子供はすべて…無料です

大勢の参加をお待ちしております!!

詳細は支部執行委員まで

日
刊

新東京

No.1331

2014年3月25日(火)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部

03-5606-6784

内線 4353

2014春レク「牛久シャトーカミヤ」 支部バーベキューレクのお知らせ

待ちに待った新東京支部春レクが開催されます。桜の花がとてもきれいだったと好評をいただいていた茨城県・牛久シャトーで組合員や組合員の家族との交流の場としてバーベキューレクを開催します。

今回も大型バスを借り切り現地まで送迎いたします。バスの乗車希望を集約しますので出欠の確認は早めに近くの組合役員へお申し出ください。お子さんやご友人など一緒に連れていきたい人であれば、参加可能です。ぜひ、お声かけください。

日時:2014年4月6日(日)

場所:茨城県牛久市・牛久シャトーカミヤ

集合:新東京郵便局前9時00分 9時30分出發

移動:大型バスを手配します 現地着11時30分予定

会費:組合員本人 (大人) 2000円

家族・友人・OB (大人) 1000円

子供はすべて……………無料!

正社員登用試験に合格したみなさんも…無料!

**バスに乗る人数を集約しますので、申し込みの
第一次集約は3月29日(土)
最終締め切りは4月4日(金)
18時までとします。**



野球サークル『新東京』のお知らせ！！

センバツ高校野球が開幕し、プロ野球もいよいよ開幕と、野球シーズンが到来しました。

我が、野球サークル『新東京』も3年目をスタートします。

～2014年、前期練習日～

①3/26(水)10:00～ 《4面》

②4/ 9(水)10:00～

③4/23(水)10:00～

④5/ 7(水)10:00～

☆5/21(水)→中央連協野球大会！

⑤6/ 4(水)→予備日

(5/21に大会が行われた場合は、練習日とします。)

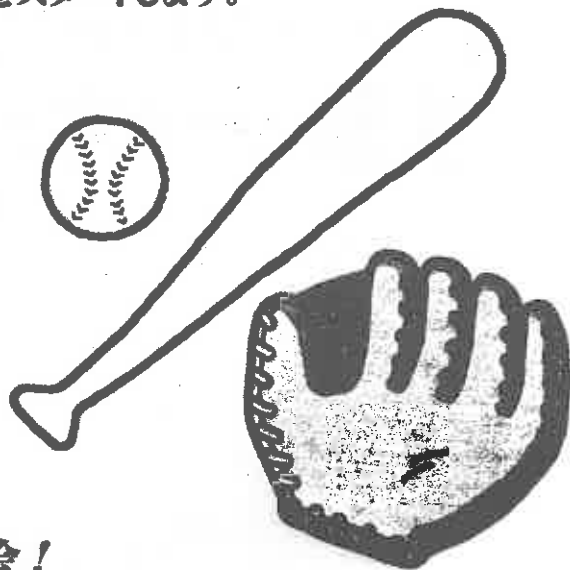
⑥6/25(水)10:00～

※場所は、すべて夢の島野球場です。

7月に行われる予定の、東京地本大会までの練習日ですので、部員の方は計年等での調整をお願いします。

また、野球に興味ある方、体を動かしたい方は是非参加してみてください！

キャプテン 石井



日 刊
新東京

No. 1 3 3 2

2014年
3月26日(水)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

男女均等法見直しを受けて

職場のジェンダーハラスメント、
マタニティーハラスメントをなくそう！

3・8国際女性デー中央集
会に行つて来ました。 たのに驚きました。

会場にはJP労組の他、自
治労、日教組、電力総連、自
動車総連、運輸労連、生保労
連、航空連合、JR連合、フ
ード連合、海員組合など八〇
〇名を超える方々が参加さ
れ、その半数近くが男性だつ
たのに驚きました。

プログラムは、連合東京女
性委員会の谷口由香さんの司
会で進められました。

来賓には、民主党男女共同
参画委員長で衆議院議員の郡
(こおり)和子さんや、同じ
く衆議院議員の辻元清美さん

他3名の参議院議員さんと1
名の区議会議員さん(いずれ
も女性)がいらつしやいまし
た。

連合副事務局長・南部美智
代さんによる「2014春季
生活闘争の取り組みの中で
の、女性の活躍促進の取り組
み」という基調提起の後、メ
インの講演がありました。

公益財団法人・21世紀職
業財団会長の岩田喜美枝さん
による「女性はずっと活躍で
きる！より
社会を元氣
に、より人
生を豊か
に」という



講演がされました。

職場での管理職に限らず男性の意識改革や、女性が職場で仕事をおこない、仕事を続け活躍できるアドバイスなど、職場環境の改善について参考になる講演でした。

私たちの職場と事情が違いかもしれませんが、老若男女問わず、組合員の皆さんに聞かせてもらいたい内容でした。

そして、連合東京女性委員会の枝飛鳥さん（運輸労連東京）による集会アピール（案）読み上げのあと、参加者全員でリパブリック讃歌を歌って終わりました。

3・8国際女性デーとは

1857年ニューヨークの工場火災で多数の女性が亡くなり、3月8日に被服工場の女性たちが、低賃金、長時間労働に抗議集会を行ったのが起源です。

その後、国連によって「女性の権利と平等のために闘う記念の日」と位置づけられました。賃金、労働条件の向上を表す「パン」と、女性の人権と尊厳の確保を表す「バラ」をシンボルに、今も世界各国でさまざまな活動が展開されています。

2014春レク「牛久シャトーカミヤ」

日時:2014年4月6日(日)

場所:茨城県牛久市・牛久シャトーカミヤ

集合:新東京郵便局前9時00分 9時30分出発

移動:大型バスを用意します 現地着11時30分予定

会費:組合員本人 (大人) 2000円

家族・友人・OB (大人) 1000円

バスに乗る人数を集約しますので、申し込みの最終締め切りは4月4日(金)18時までとします。

日刊
新東京

No. 1333

2014年
3月27日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

「忘れてはならない東京大空襲」 郵政退協主催

東京・平和集会に一七〇余人が結集

今こそ反戦・平和・非核・脱原発の声を上げよう

一九四五年三月九日深夜から十日未明に東京・日本橋から下町一帯は米軍のB29による空襲により火の海となり、一〇万人を超える市民が犠牲になりました。

一〇年前郵政退職者組合東京東部地区の仲間が集まり、反戦・平和の折りからはじまった「忘れてはならない東京大空襲」の

集いは今年で一〇年となり、本年の参加者は退職者・現役JP組合員あわせて一七〇余名の参加がありました。

参加者は十二時半までに受付・献花・東京都慰霊堂参拝をすませ、集合写真のあと会場を江戸博物館に移し、平和集会となりました。

まずNHK制作の記録ビデオ

「五八三枚の写真」を鑑賞。

つづいて主催者の畑中会長は「戦争の悲惨感を体験している人は少なくなっている。誰を憎むというのではなく戦争の中身を考えていかなければならない。今このことが脅かされている。この事を見つめて戦争の悲惨さを後世に伝え残すことが大切だ。郵政退協は現役組合員と一体になり平和を求めるためJP労組退職者の会に一括移行して、この活動を若い人たちと継承したい」と話されました。

来賓（奥村・郵政退協全国会長、福島・東京高退連会長、江東区・江戸川区議員団）から「地球上から戦争の文字をなくす運動を」「介護問題など共に考えてほしい」「地方議員として意見を

言っていきたい」「憲法を変えないで解釈をかえていく動きはとんでもない。土井たか子さんじゃないがダメなもののはダメと言っていく」などの挨拶を受けて東京大空襲訴訟弁護団の杉浦ひとみ弁護士講演がありました。

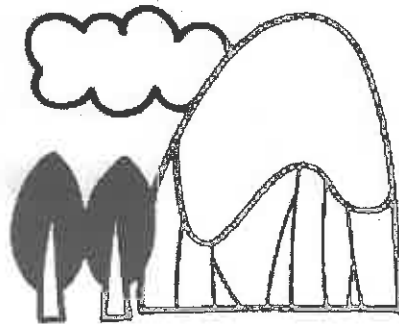
杉浦弁護士は「この裁判は国の責任で引き起こした太平洋戦争での空襲による甚大な被害を通して、①国は国民の人間としての尊厳を問う②国と国民のあり方をどう捉えるかを求めるものでした。

この訴訟の最中にあの一・一東日本大震災があり、津波により呑みこまれた惨状は、大空襲の焼け野原と酷似しており原発事故災害とともに、国の責任

と救済措置が必要で。

訴訟は一審、二審、最高裁とも敗訴となり、今後は空襲被害者の援護法の制定に向けて超党派の議員連盟を頼りに立法化を求めると共に、日本弁護士会に人権救済を求めて行く」と訴えられました。

「若い人の中に安倍首相



が右よりじゃなく真ん中と云っている人がつくられている。消費税・自衛隊・沖縄の基地は重要という若い人の新聞投稿にどう応えていくべきか」。

「日本も重慶で無差別爆撃をおこなった。東アジアの人にとのぐらい迷惑をかけたのか。原発は核弾頭をつくれるから必要という思惑でやられている。エネルギー政策をも含めて反対を」

「四年前から東京大空襲をどう伝えるのか考えて千羽鶴をつくってきた。今後、どのようにつなげていくのか考えていきたい」等々の自由発言をうけて集会は終了しました。

今回の東京平和集会には中部地区から退協会員と現役組合員(ゆうメイトを含めて)合わせて五〇余名の方々が参加されました。お疲れさまでした。

(「郵政退協NEWS」より)

日 刊 新東京	No.1334	2014年3月28日(金)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

第10回郵政退協主催 3・10東京平和集会 新東京支部参加者の感想 「忘れてはならない!東京大空襲」に参加して

・空襲の被害を受けて犠牲になるのは弱い人、私たちである。狙われてしまうんだなと思った。戦争に憤りを感じる。組合員へそして後世に伝えていきたい。

・東京大空襲で爆撃された地図を見た。私の住んでいる所も焼けたんだと知った。

・私のおじいさんは硫黄島の部隊だった。隊が父島にいて無事だったので私が生まれた。戦争を経験している人が少なくなってきたが二度と戦争はしてはいけない。

・今回は集会の内容が濃いと思った。歴史を語り継ぐ大切さを感じた。しかし今、新しく歴史を作られているんじゃないかと危機感を感じている。

・本所局に25年間いて総分会長をやったこともあった。会長の来田さんと一緒にやっていた。本所局は今の第一ホテルのところにあり区役所と並んでいた。来田さんはいい生き方を貫いているんだなと実感した。いつかは参加しなくてはと思い、今日実現できたが、昔の青年部の会議をやっているような思いだった。話は少し変わってしまっていますが、今の最大の問題は原発の問題だと思う。どこにも捨てられない核のゴミをうみだすものを何で作るのかといたい。

・新東京も新執行部体制となりました。JP労組の教育はいまだ過渡期ですので本部地域の学習のほかにも支部で学習会をやって

いくとかなないと組合員の意識は離れてしまうのではないかと思う。今日はしっかり学びました、もう一つがんばりましょう。来年また会いましょう。

・横浜空襲をきっかけに平和運動に関心を持ちました。貴重な集会に参加させてもらいありがとうございます。世界規模で警鐘を鳴らしている交響曲が存在している。

・この集会に三年前に初めてきました。そのときは、「ああ東京で空襲があったんだな」という程度だった。二年前に沖縄へ行き、平和に対してとても考えている地域もあるんだと思った。東京ではなんで慰霊の施設も資料館もないのかと気がついた。「原発必要じゃん、電気料金が高くなるし」「尖閣の島は日本のものだよね」と思わせてしまう報道のあり方を来田会長が言っていたが、現代の若者の心情をつかむのはとても大切だなと感じた。「安倍政権は中道だ」といい、平和について考える人たちを左翼極左としてしまう。立ち位置がずれているのではと思うが現実をしっかりと見ていきたい。私たちは真に組合員の幸せを実現していくために活動している、みんなが平和で暮らしていける社会を作っていくことはまさにその通りだと感じる。絶対に安全な社会を作っていくためにがんばります。

・紹介のあった傷痍軍人の資料館に行ってみようと思います。

・憲法をないがしろにしていく今の社会にたいして、第二次大戦の犠牲のうで憲法ができたのだとの問題提起があったのは良かった。領土をめぐる戦いが起こることがないように自分の目で見ていきたい。

・最初は60年以上前の空襲の訴訟はいらないんじゃないかと思っていたら問題の本質は現在の原発へとつながっているんだと感心した。若い人へつなげていきたいなと感じた。つながりを大切にしていきたい。

・北海道、泊の海はきれいだった。泊原発の再稼働といわれているがなんとかならないか。この前、靖国神社の遊就館に行ってみたら若い人も来ていた。どういうものか見てみるのもいいのではないかなと思う。田母神（たもがみ）氏の本もたくさんあった。しかし、戦争を美化している。

・今は昔、中郵から本所へ配転し3年お世話になりました。葛西で6年、晴海で3年半、2年病休で退職となりました。一番いえることは家庭が平和になることこれが一番。おあとがよろしいようで…。

・集会で憲法九条のことが出た。憲法公布してすぐの小学生向けの「戦争放棄の新しい憲法の話」は、これを読めば戦争ダメだとわかる。講演では行動なき正義感は悪だ、ともいわれていた。戦争はどんなことがあってもだめだと訴えたい。

・今日、関東大震災でたくさんの方が亡くなった東京被服廠跡がどこかわかりました。みんなで集まった東京慰霊堂の場所でした。大学では歴史学おもに昭和戦前史を専攻していました。やはり実地で見聞きするのはいいものだと思います。今日は勉強になりました。

・自分が若いときは職場の横にいる人が戦

争を体験していて「戦争は絶対だめだよ」と話してくれていた。聞いたもの、いまでも忘れない。知った人はその責務がある、戦争に反対する、行動する義務があるんだと講演者が言っていた。無関心はいけない、伝えていかなければならない。

・戦争反対を訴えていくのは労働組合を強くしていかなければならない。

・子供の頃は総武線が木の車両だった。アコーディオンを持った傷痍軍人が車内にいたことを覚えている。そのとき父はいくらか寄付をしていたと思う。父は関東大震災のとき、当時、ドブ川だった国際通の堀に入っておひつを頭からかぶって助かった。戦争では戦闘はなかったものの広島宇品から韓国へ渡り、重慶・漢江へ行っていた。当時でも南京の虐殺はあったと話になっていた。特定秘密法案の可決の時は国会前へ行き大声を上げてきた。言うべきことは言わないといけない。行動するときは行動する。日本人はおとなしいんじゃないのか、我無関心の若者も増えている。なんだか向きが違っているんじゃないかなと感じる。

・鶴を折るのを会場でやったらいいと思う。みんなでやったら新東京の人たちも助かると感じた。戦争の時は江東区平野に住んでいた。来年は会場に1000人集めてひとり一羽折るとするのはどうだろう。

・義理の親の弟が潜水艦に乗るのに遺書を書いていった。帰ってこなかった。感謝状を内閣総理大臣名でもらったけど海部俊樹だった。国のために命をなくした人に何でもっと早くくれないんだと思った。

・去年初めて参加して「来年必ず来ます」といった。来年は3月10日だろうから3月10日に計画年休をいれて新しい人を連れてきて伝えていこうかなと思います。

2014年3月31日 退職者のみなさん 長い間お疲れ様でした

本日定年退職を迎える組合員の皆様、誠にありがとうございます。また、長い間組合活動にご理解ご協力いただきまして本当にありがとうございました。再雇用なされる方は、新東京支部の組合員の1人として、こ

れからもご指導ご協力をお願いしたいと思います。また、再雇用されない方は新設された『J.P.労組退職者の会』にご加入いただき、これからもJ.P.労組の仲間としてご指導ご鞭撻をいただきたいと思います。本当に長い間お疲れ様でした。これからも元気に第2の人生を過ごしてください。

新東京支部 支部長 荒牧 栄司

日 刊

JP 新東京

No. 1335

2014年
3月31日(月)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

2014春レク「牛久シャトーカミヤ」

日時:2014年4月6日(日)

場所:茨城県牛久市・牛久シャトーカミヤ

集合:新東京郵便局前9時00分 9時30分出發

移動:大型バスを手配します 現地着11時30分予定

会費:組合員本人 (大人) 2000円

家族・友人・OB (大人) 1000円

最終締め切りは4月4日(金)18時までとします

2014年3月31日退職者のみなさん 長い間お疲れ様でした

定年退職者

第1輸送分会	佐野 邦男 さん	第1普通郵便分会	仲田 恵 さん
第1輸送分会	片柳 勝彦 さん	第1特殊郵便分会	菊池 富男 さん
第1輸送分会	熊谷 昌久 さん	第1特殊郵便分会	黒澤 孝治 さん
第1輸送分会	山口 裕康 さん	第1特殊郵便分会	萩原 邦之 さん
第1・2ゆうパック分会	東 真 さん	第1特殊郵便分会	新井 義孝 さん
第1・2ゆうパック分会	本間 久 さん	第2特殊郵便分会	菊地 勝 さん
第1・2ゆうパック分会	金子 雄二 さん	第2特殊郵便分会	下山 薫 さん
第1・2ゆうパック分会	國文 敏次 さん	第2特殊郵便分会	佐藤 俊彦 さん
第3ゆうパック分会	倉坪 勤 さん	第2特殊郵便分会	立原 秀雄 さん
第3ゆうパック分会	松尾 克則 さん	第2特殊郵便分会	松浦 義和 さん
第2普通郵便分会	山崎 勝 さん	第2特殊郵便分会	斉藤 克彦 さん
第2普通郵便分会	塚田 三功 さん		

勸奨退職者

総務分会	阿部 真人 さん	第3ゆうパック分会	御供 俊輔 さん
第1・2ゆうパック分会	川村 和夫 さん		

高齢再雇用終了

第2普通郵便分会	足達 喜信 さん (2/28付終了)
第3ゆうパック分会	岡本 茂 さん (3/31付終了)

総合共済に入ろう 加入募集中

共済の基本中の基本、助け合いの原点「総合共済」にまだ入っていない人は、今すぐ加入しよう。

日本全国の働く仲間が掛金を出し合って、結婚、出産、小学校入学祝いなどのお祝い事も、住宅災害や死亡などの不幸なことも、幅広く支払う総合共済…。慶弔見舞金制度です。

掛金は毎月750円で安心・安全に働き暮らしていくことのできる共済です。未加入の方は要検討ですよ！ 詳しくは組合役員まで…